

.....

| | |
|-----------------|---|
| 1. 事故・ヒヤリハットの別 | ヒヤリ |
| 2. 体験した事例の名称 | 救急搬送中、片側 2 車線の国道の追越車線走行中、逆走して来た乗用車が急接近してきた。 |
| 3. 体験した事例の中心的要素 | 救急車が片側 2 車線の国道の追越車線を緊急走行中、進行方向 150 メートル前の交差点より乗用車が錯誤して、追越車線に進入し救急車に急接近してきた。 |
| 4. 体験した事例の原因・理由 | 乗用車の運転手が、交差点より国道に進行する際、国道が 4 車線のため、進入する車線を錯誤し反対車線の走行車線を逆走したものと思われる。 |

.....

| | |
|------------------|-----------------|
| 1. 体験した事例の直接的な原因 | 行動の意志決定に問題があった。 |
|------------------|-----------------|

.....

| | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1. 発生日時 | 平成 19 年 5 月 22 日 午後 1 時頃 |
| 2. 発生した当時の天候 | 晴 |
| 3. 発生した活動現場 | 屋外：国道上 |
| 4. 体験した事例の種類 | 他人が、回答者を負傷させた。 |
| 5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度） | 死亡していた（させていた）だろう。 |
| 6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか） | 交通事故、 |
| 7. 事例体験時の活動 | 救急、現場活動中期、 [] |
| 8. (7 の活動中) どのような作業中に発生したか | 搬送中、 |
| 9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。 | 数年に 1 度程度の割合で体験している。 |

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

| | |
|------------------------|--|
| 当事者 A | 年齢[58]歳、 勤続年数[37]年、 現場経験年数[37] 年、 階級[消防司令]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [車長] |
| 当事者 B | 年齢[30]歳、 勤続年数[12]年、 現場経験年数[12]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [機関員] |
| 当事者 C | 年齢[40]歳、 勤続年数[22]年、 現場経験年数[22]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [隊員] |
| その他 (当事者が 4 人以上の場合) | 看護師、傷病者、家族 1 名 |

1 1 . 事例発生の経過。

| | 誰(何)が | なにをした | その他・備考など |
|-------|-------|---|----------|
| 経過 1 | A | 乗用車との衝突を回避するため、機関員に逆走車両あり、走行車線に回避と指示する。 | |
| 経過 2 | B | 救急隊長の、指示で走行車線に進路を変え、衝突回避を図る。 | |
| 経過 3 | C | 傷病者の観察を継続する。 | |
| 経過 4 | | | |
| 経過 5 | | | |
| 経過 6 | | | |
| 経過 7 | | | |
| 経過 8 | | | |
| 経過 9 | | | |
| 経過 10 | | | |

【その事例発生時の状況について】

事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が優れていた。危険情報を把握、予見できた。危険事象の対応方法を知っていた。集中力、注意力があった。避難・退避がうまくいった。周囲の視界が確保できていた。現場周辺の地理を知っていた。指揮者が適切に指示した。後方からの監視の目が行き届いていた。他隊(員)との連携活動がうまくいった。たまたま、負傷事故にならなかった。

心理・体調について

a . あせりを感じていた

| | |
|---------------------------------------|-----|
| ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 | いいえ |
| ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 | いいえ |
| ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。 | いいえ |

b. 注意力が欠如していた

| | |
|---------------------------------|-----|
| ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 | いいえ |
| ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 | いいえ |
| ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。 | いいえ |

c . 経験・知識が不足していた。

| | |
|----------------------------|-----|
| ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。 | いいえ |
| ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 | いいえ |
| ・活動に対する経験が不足していた。 | いいえ |

d . 心身の不調があった

| | |
|-----------|-----|
| ・体調が悪かった。 | いいえ |
| ・悩み事があった。 | いいえ |

装備・資機材について

e . 資機材の故障・不具合があった。

| | |
|---------------------|-----|
| ・装備・資機材自体に問題があった。 | いいえ |
| ・装備・資機材の使用方法が誤っていた。 | いいえ |
| ・装備・資機材の対処能力を超えていた。 | いいえ |
| ・必要とする装備・資機材がなかった。 | いいえ |

活動環境について

f . 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

| | |
|---------------------------------|-----|
| ・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |
| ・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |

g . 行動しにくい環境だった。

| | |
|------------------|-----|
| ・狭隘な場所であった。 | いいえ |
| ・暑かった（寒かった）。 | いいえ |
| ・野次馬が多かった。 | いいえ |
| ・現場周辺の地理に不案内だった。 | いいえ |

h . 足場が悪かった。

| | |
|------------------|-----|
| ・足元が躓いたり滑りやすかった。 | いいえ |
| ・足元の強度が不足していた。 | いいえ |

指揮・管理について

i . 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

| | |
|-------------------------------------|-----|
| ・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。） | いいえ |
| ・指示内容に誤り・偏りがあった。 | いいえ |
| ・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。） | いいえ |

k . 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

| | |
|----------------|-----|
| ・隊員の連携が不十分だった。 | いいえ |
| ・隊員が不足していた。 | いいえ |

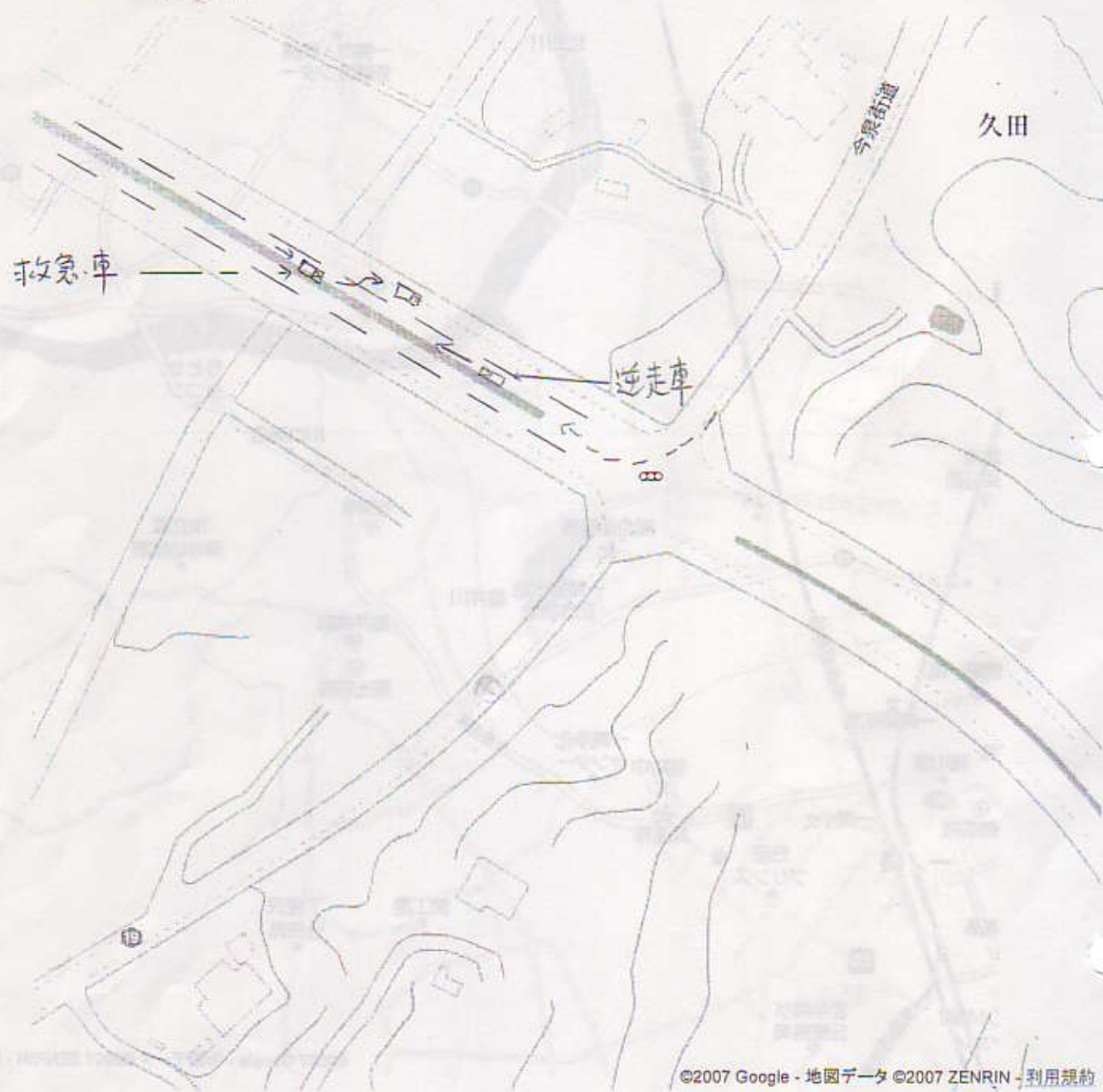
その他

l . その他の理由があった。

| |
|-----|
| いいえ |
|-----|



Google
マップ



©2007 Google - 地図データ ©2007 ZENRIN - 利用規約